

ものから知る久米官衙の姿

くめひょうめいこくしよす えき 久米評銘刻書須恵器

遺跡群北西部から出土した須恵器の甕の破片で、「久米評」の3文字が刻まれています。評とは、7世紀半ばから約50年間だけ使われた行政区分を表した文字で、現在の郡と同程度の規模となります。



とうぶつだいぎ 陶仏台座



遺跡群北西部から出土した焼き物製の仏像台座です。側面には蓮の花びらが8枚刻まれています。このような遺物が発掘調査で出土したのは全国で唯一です。

のき がわら 軒瓦

久米官衙遺跡群からは多くの瓦も出土しています。写真は、来住廃寺金堂基壇から出土したもので、軒先に葺かれた軒丸瓦です。軒丸瓦の紋様は蓮の花を表したもので、中心には大きな房と種が表現されています。



久米官衙遺跡群を巡る

青色で示した道をたどると久米官衙遺跡群の主な地点を見学することができます。地図の数字はこのパンフレットの説明や写真と対応しております。

(1周約1.5km、徒歩40分程度)



ものを見る

久米官衙遺跡群から出土した遺物は松山市考古館にて展示しております。あわせてご覧ください。

お問い合わせ

松山市教育委員会文化財課

〒790-0003 松山市三番町六丁目6番地1 Tel: 089-948-6605

松山市考古館

〒791-8032 松山市南斎院町乙67番地6 Tel: 089-923-8777

発行 松山市教育委員会 / 協力 (財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

史跡久米官衙遺跡群

(久米官衙遺跡・来住廃寺跡)



古代の役所の姿がみえる

かいろうほつぽうかんだ 回廊北方官衙

回廊状遺構の北側110m四方に広がる役所です。南西部には収納用の建物が5棟並んで建っていました。写真はそのうちの最も大きい建物です。 地図⑤



かいろうじょういこう みなみもん 回廊状遺構 南門

回廊状遺構南辺の中央にある門です。回廊状遺構の外側の柱穴列と一体に建てられています。 地図⑥



きしはいじこんどう 来住廃寺金堂

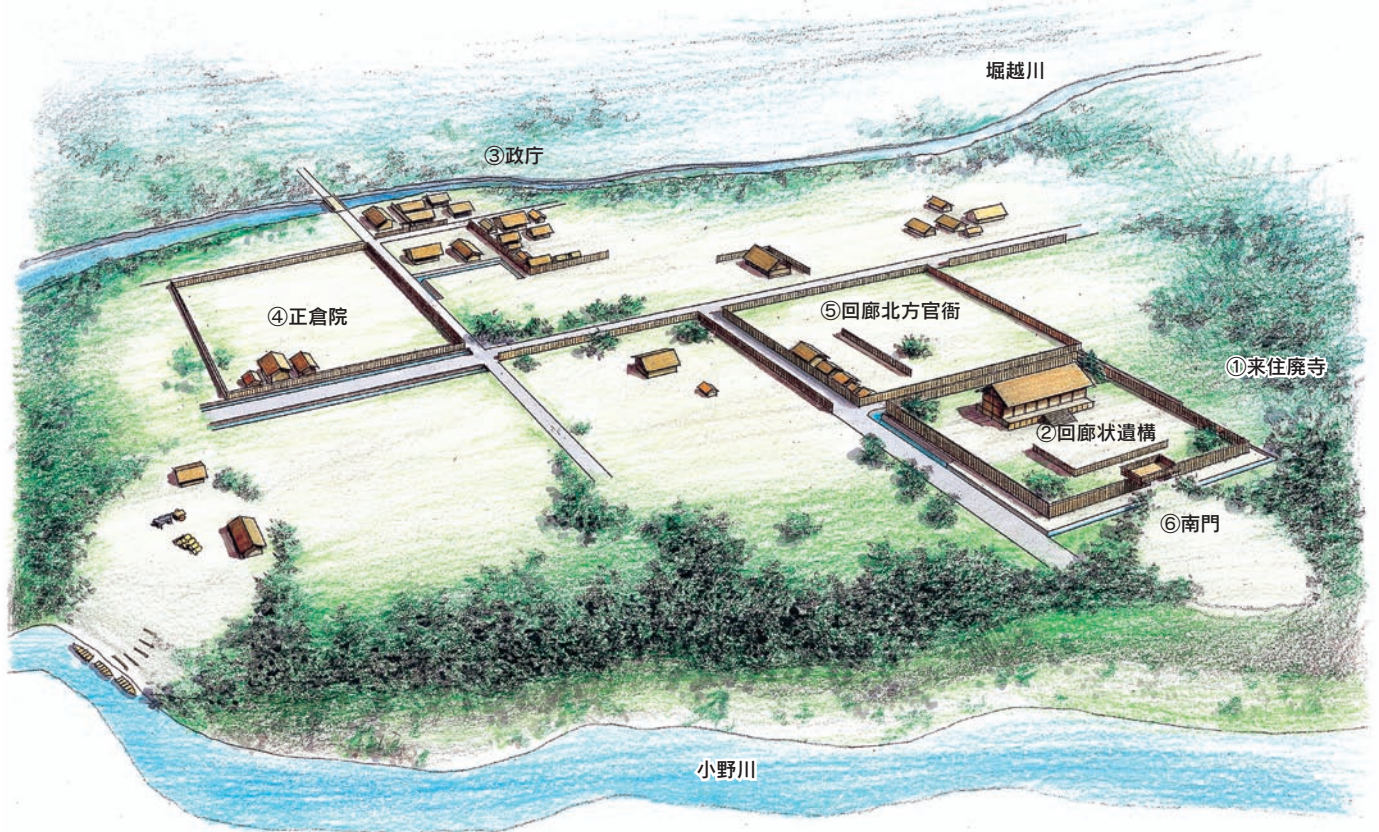
金堂は今のお寺の本堂にあたり、本尊が安置されました。現在も基壇（建物の土台部分）が周囲より高く残されています。 地図①



しょうそういん 正倉院

遺跡群北西部に位置する正倉院は、租税を収納するための倉庫群です。7世紀には110m四方程度の区画でしたが、8世紀半ばごろには南辺が南側に拡張されるとともに濠によって囲われた東西約120m×南北約140mの区画へと改変されました。濠の上層からは10世紀前半ごろの土器が出土していることから、このころに埋められたと考えています。 地図④

7世紀半ばごろの久米官衙遺跡群



かいろうじょういこう 回廊状遺構

回廊状遺構は、約110m四方の区画された敷地に設けられた大規模な施設で7世紀半ばごろに建てられました。外縁には1辺100mほどにわたって2条の柱穴の列が確認されており、板塀の跡と考えられます。内部には柵や正殿的建物と呼んでいる大型の建物が建っていました。この建物は、南北7.06m×東西36.4mに復元できる久米官衙遺跡群最大の建物です。 地図②

せいちょう 政庁

来住台地の北辺に隣接して建てられた役所の中心施設です。7世紀の前半ごろに建てられたと考えられますが、半ばごろには移転したようで、イラストの時期の政庁の位置はよくわかっていません。政庁の建物は壁の一边が敷地の外郭施設である板塀と一体に建てられていました。 地図③

きしはいじ 来住廃寺

来住廃寺は、7世紀の終わりごろに回廊状遺構が壊されたあと、東半分を重ねるように建てられた寺院で、久米官衙遺跡群でも最も新しい施設のひとつです。正確な規模や伽藍の様子はまだわかっていませんが、小さな森のように残る金堂基壇跡では今も柱を据えた礎石と塔露盤と呼ばれる巨石を見ることができます。 地図①